

New! 新たに指定された文化財！

令和8年3月に「仙台城本丸跡出土ガラス製品」（写真1）と「若林城跡出土織部皿」^{おりべさら}（写真2）が仙台市指定有形文化財に指定されました。

仙台城本丸跡出土ガラス製品は、平成9～15年度の仙台城跡本丸北壁石垣の修復工事に伴う発掘調査で出土した474点の遺物です。出土した地層から17世紀前半頃のものと考えられます。国内で江戸時代初期までのヨーロッパ産ガラス製容器が出土した例は少なく、仙台城本丸跡からの出土点数は全国で最多を誇ります。本資料は、ヨーロッパから仙台藩への物流の歴史を語る上で重要であるとともに、伊達家の海外文化への関心をうかがわせる点において、非常に高い価値を有するものと言えます。



写真1：仙台城本丸跡出土ガラス製品のうち青ガラス製モール鉢



写真2：若林城跡出土織部皿

若林城跡出土織部皿は、平成22年度の若林城跡第11次発掘調査で出土した遺物であり、出土状況や共に出土した遺物から若林城の存続時期である17世紀前半のものと考えられます。底部中央がドーム状に盛り上がる他に例を見ない器形であり、その製作技法の特徴から、美濃（現 岐阜県）の弥七田古窯^{やしちだ ことやう}で生産されたものと評価されています。若林城は仙台藩初代藩主である伊達政宗が晩年を過ごした城であり、本資料は政宗の趣味嗜好が垣間見える遺物として価値が高いと言えます。（担当：高橋）



大発見！！ ちゃっこい土偶

令和7年5月～10月、カメイアリーナ仙台の南側にある山口遺跡^{やまぐち}・下ノ内浦遺跡^{しもの内うら}で発掘調査を行いました。調査では縄文時代後期（約4,000年前）の配石遺構（写真1）や土坑、ピットなどの遺構が多く見つかりました。土坑からは縄文土器や石器のほか、焼けた動物の骨や土偶、土製耳飾りが出土しており、周辺の調査成果などから、墓や祭祀の場であったと考えられます。

また、今回の調査では大きさが2cmの小さな土偶が出土しました（写真2）。頭部は欠けていますが、腹部と脚部は線で文様が描かれています。この土偶は仙台市内で出土した中では最も小さいです。一方、遺跡の南側にある伊古田遺跡^{いことだ}では大きさが41cmの土偶（国内で3番目の大きさ！）が出土しています。富沢地域に住んでいた縄文時代の人達はどのような願いを抱きながら小さな土偶と大きな土偶を作ったのでしょうか。（担当：庄子）



写真1：調査で見つかった配石遺構（北から）



約2cm

写真2：出土した大きさ2cmの土偶

わたしの、イチオシ文化財！

みなさんは仙台市の「大沢」という地名を聞いて、最初にどこを思い浮かべますか？

今回ご紹介する「大沢」は仙台市のお隣、富谷市との境に位置する泉区大沢（泉ヶ丘小学校の周辺地域）のこと。ここでは古くから豊作を願う民俗芸能「田植踊」が伝承されてきました。他地区の田植踊の演者（早乙女）が女性に変わったなかでも、当地では現在も男性が女装して演じる伝統的なスタイルを継承しています。伊達家から賜ったという「竹に雀」の振袖を男性が着こなすのも素敵ですが、何より深めの笠と顔隠しで誰が踊っているのか一見よく分からない、ちょっと謎めいた雰囲気もたまらない！ ゆったりとした舞振りと合わさって、アヤシイ色気すら感じるのは私だけでしょうか…？

ちなみに、近年は女性や子供たちにも参加してもらって、よりパワーアップして伝承活動に取り組んでくださっています。令和7年秋からは、右の写真のような造花をあしらった笠から元々のシンプルなかたちの笠に戻していただきましたので、ぜひみなさんのその目で！写真とどう違うのか確かめて来てくださいね。



仙台民俗芸能保存継承協議会
Instagram

※公演予定は「仙台民俗芸能保存継承協議会」のInstagramで発信中です！
ぜひフォローしてお待ちください！（担当：沼田）



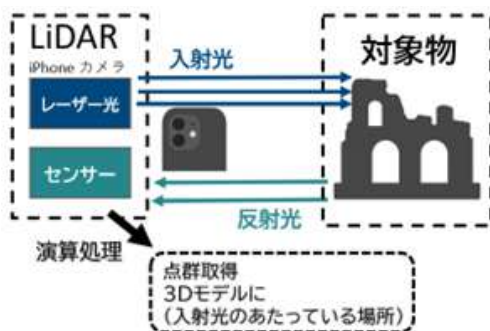
写真1：宮城県指定無形民俗文化財
「大沢の田植踊」

発掘調査DX化への挑戦！「LiDAR計測の実践」

近年、文化財の調査現場では、デジタル技術の活用が進んでいます。仙台市文化財課でも昨年度から発掘調査のDX（※デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術で業務変革をもたらすこと）に取り組み、LiDAR計測をはじめとした3D計測を実践しています。

LiDAR（ライダー）とは、レーザー光を対象物に当て、その反射をもとに形や距離を測る技術です。発掘調査では、遺構の形や地面の凹凸、出土した状況などを立体的に記録することができます。これまで手作業で図面化していた内容に加え、現場の状態を3Dデータとして残すことで、調査後にもさまざまな角度から確認できるようになります。

文化財課では、調査の効率化だけでなく、記録の精度向上や情報共有にもつながるものとして、この技術を活用しています。たとえば、現地で確認した遺構を立体的に記録することで、担当者同士の検討や、後日の整理作業にも役立てることができます。土の中に残された歴史を、最新技術でより正確に記録する。文化財を未来へ伝えるための調査も、少しずつ新しいかたちへ進んでいます。（担当：須貝）



模式図：LiDAR計測の仕組み

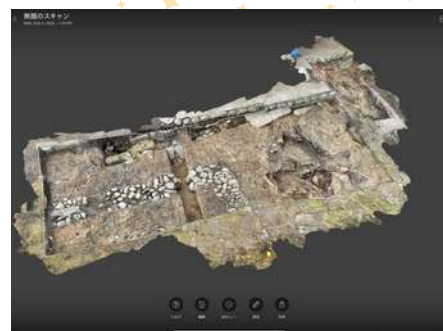


写真1：LiDAR計測で3Dモデル化した
仙台城大手門跡の調査

★公式X「文化財 課広報」はこちらから！

★調査区等の3Dモデルを作成しています♪



文化財に関する
最新情報発信中！
ぜひご登録を！



仙台城中門石垣などの
3Dモデルを発信中！
ぜひご覧ください！

資源循環の社へ



この広報誌は雑誌として
リサイクルできます